

### 安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを想定される内容を「警告」「注意」の2つに別してあります。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

**警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**

**注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近所に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラッス網など）と接触しないよう取り付けます  
落下によりけがをすることがあります

### 注意

- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下によりけがをすることがあります

### 注意

- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと  
けがをすることがあります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下によりけがをすることがあります
- 部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをすることがあります
- 作業は2人以上でおこなうこと  
レンジフードは31kgの重さがあります

### 取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的資格者をおこなう必要があります。
  - ・大工工事 [設置のための大工工事等]
  - ・配線工事 [コンセントの設置、コンセント・コネクタ・接続以外の配線接続等]
  - ・管工事 [ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等]
- 流通業者（販売店）を通じて組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出さず設置してください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m<sup>2</sup>/h 静50Pa以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじめるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：1/100～1/50程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。なお、レンジフード取付高は、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におこなわないこと。
- 製品の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm<sup>3</sup>程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をください。

### 取り付け前の調査と準備

#### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラッス網など）と接触しないよう取り付けます  
落下によりけがをすることがあります

#### 注意

- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下によりけがをすることがあります

1 取付箇所の強度確認  
製品を支える強さが 31kg 必要です。

2 天井への穴あけ（取付詳細図-1）  
1) 天井面のレンジフードを取り付ける位置に開口300mm×奥行300mmの開口をあけてください。  
2) 開口部周辺を補強板で補強してください。  
※補強板は、野縁・野縁受け等に固定してください。

3 吊りボルトの取り付け（取付詳細図-2）  
レンジフードの吊りボルト位置に合わせて、吊りボルトを垂らしてください。  
※吊りボルトは、M10～12を用いてください。  
※吊りボルトは製品を支える十分な強さを確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります。

4 排気ダクトの取り出し（取付詳細図-2）  
φ150のスパイラルダクトを、取付詳細図-2の位置に取り出してください。

5 標準取付寸法  
本製品の標準取付寸法は、調理機器上面からレンジフードの下端まで80cmです。  
※火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

6 電源コンセント・ブレーカー  
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）  
コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。

### 各部のなまえ

電源プラグ、ダクトカバー(別売品)、前ふた、後ふた、運動信号受発部、本体、スイッチ、フード、ベルマウス、オイルバック、煙道、煙道枠、整流板

### 付属品

- トラスねじ(M4×10) 13本  
煙道およびフードの取り付けに使用します。
- トラスねじ(M5×12) 4本  
フードの取り付けに使用します。
- 煙道 1個  
本体内部に取り付けます。
- ベルマウス 1個  
(煙道にテープで固定されています。) 本体内部に取り付けます。
- フード固定金具 1個  
フードと本体の固定に使用します。
- ソフトテープ 1本  
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

### 製品寸法図

レンジフード設置条件 (単位: mm)

ダクトカバー幅	製品総高さ	A	設置寸法(動作)
CDDH-115*	600-680	1650	2200-2280
		1700	2290-2330
		1750	2300-2380
		1800	2400-2480
CDDH-195*	680-760	1650	2280-2360
		1700	2380-2460
		1750	2420-2500
		1800	2480-2560

※注: 調理機器設置高さや天井高さの関係により、このレンジフードが設置できない場合があります。右表の製品設置条件と天井高さの関係はダクトカバーを参照してください。  
※右表の設置寸法は一例です。記載以外の設置寸法の場合は、製品寸法図を参考にしてください。  
※ダクトカバーの「\*」は、色別型番入りです。

## 取り付けかた

### 1. 付属品の確認

#### 注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- 作業は2人以上でおこなうこと  
製品は31kgの重さがあります

取付品を確認します。  
梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

● 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「3. フード・本体の準備」までにはずさないでください。(図1-1)

● 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

● 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

### 2. 取付準備

#### 警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けます  
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります

#### 注意

- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります

1 事前に管工事業者（法的資格者）へ天井へのダクト穴の開口を依頼してください。(図2-1)  
また、天井開口部近くの補強板または野縁等に専用コンセントを設置します。

2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットし、周囲を仕上げます。(図2-1)

3 M10～12の吊りボルト（取付作業側手配）を4本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは前後、左右とも275mmです。(図2-1)

● 前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。

### 3. フード・本体の準備

#### 注意

- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けません  
火災・故障の原因になります

● 前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。

● 前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。

● 前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。前ふた・後ふたは必ずしも、必ずしも必要ではありません。

### 4. 本体の取り付け

#### 注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下によりけがをすることがあります
- 部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをすることがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。(図4-1)  
1) 右図を参照し、次式によりマーカ位置(X)の幅を算出してください。

X = 「天井高さ」 - (床から調理機器上面までの高さ) + 800 + 460

例: 天井高さが2350mm、床から調理機器上面までの高さが850mmの場合  
X = 2350 - (850 + 800 + 460)  
天井からのマーカ位置(X)は240mmとなります。

2) 吊りボルトにマジックペンなどで、天井からXの幅の位置にマーカをつけます。

2 ダクトカバー（別売品）を取り付けます。(図4-2)  
ダクトカバーに付属の座付ねじ(φ5.1×25)4本でダクトカバーを天井面に固定します。

● 切り欠きのある面をレンジフードの前後方向にしてください。向き間違えると本体との固定ができなくなります。

### 5. 電気配線

#### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

● 「4. 本体の取り付け」手順4の2)で以下の作業をおこないます。  
1) アース（D種接地工事）を取ります。  
2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

● 電源は専用のコンセント（2極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。  
● 「6. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

### 6. 試運転

#### 注意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと  
けがをすることがあります

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

● 前ふたは取り付けていない状態で試運転してください。

● 運転時、各連動の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

● 異常や振動がないことを確認してください。

● 屋外の排気出口から排気し、異常がないことを確認してください。

● 取り付けまたは各種工事で発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

### 7. 横ふた・前ふた・後ふたの取り付け

● 横ふたは左右同一品です。また、前ふた・後ふたも同一品となります。

● 横ふたを先に取り付けてください。

● 取り付けかたは「3. フード・本体の準備」の取りはずしかたを参考にしてください。

● 取り付ける際は、フード天板面にキズを付けないように注意して取り付けください。

● 横ふた・前ふた・後ふたの取り付けが終わったら、フード天板に貼ってあるキズ防止テープをはがってください(図3-5参照)。

※ 取付作業完了後は製品保護のため、必ずしも保護用のクッション材と固定テープはもとの状態に取り付けてください。

### 8. お客様への説明

● 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

● 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

### 7. 横ふた・前ふた・後ふたの取り付け

● 横ふたは左右同一品です。また、前ふた・後ふたも同一品となります。

● 横ふたを先に取り付けてください。

● 取り付けかたは「3. フード・本体の準備」の取りはずしかたを参考にしてください。

● 取り付ける際は、フード天板面にキズを付けないように注意して取り付けください。

● 横ふた・前ふた・後ふたの取り付けが終わったら、フード天板に貼ってあるキズ防止テープをはがってください(図3-5参照)。

※ 取付作業完了後は製品保護のため、必ずしも保護用のクッション材と固定テープはもとの状態に取り付けてください。

### 8. お客様への説明

● 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

● 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

### 8. お客様への説明

● 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

● 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。